

広島で感じたこと

金嶋 詩文

今回私が、広島に行った最初の印象は、  
自然豊かできれいな街でした。だから、  
この場所に78年前、原爆が投下されたなん  
て、信じられませんでした。でも、広島平和  
記念資料館に行くと、そこには、熱さで苦し  
み、全身にやけどをおった人達の写真。やぶ  
けて、ボロボロになった服や、こげた水筒、  
大きなキノコ雲の写真があり、全てにしよう  
げきをうけました。原爆は、私の想像をはる  
かに起えた恐ろしさでどれだけほかにかが強  
く、悲さんなものだったのかを知りました。  
そして、78年たった今でも原爆のせいぞろ  
苦しんでいる人が、たくさんいるということ  
も知りました。私は、この広島が、戦争があ  
った場所なんだと思ひ知らされました。

原爆ドームに行った時もおどろきました。  
原爆ドームは熱どとけたり、鉄骨が出ていた  
り、戦争の悲さんさがわかるものでした。こ



の建物を78年もの間、当時のまま保存されて  
いることに、広島の人々の戦争を伝えたいと  
いう思いを感じました。

広島平和記念公園で、中本さんという方が  
私達に、戦争のことを話してくれました。  
広島に原爆が落とされる前、原爆が落とされ  
た後、の街のこうけいや、生活について、強  
くかたづけられました。その話を聞いている  
と、今の私達には、考えられない日でしょうが  
ありました。それは、いつ空しゅう警報がな

るのか分からない中で、毎日、ねおれずにお  
びえてゐる人、大切な人を失って、泣いてい  
る人達がたくさんいたという事実です。私は  
何で戦争をするのだらうと思いました。中本  
さんはそんな戦争の恐ろしさを教えてくれま  
した。戦争は、新しい核をためるための人体  
実験で気候や場所で、どこに落とすのかを決  
めていて、うらみもなく原爆を落としたとい  
う話を聞いて、私は、しょうげきをうけまし  
た。中本さんは、次は、あなた達が戦争の悲



さんさを、未来に伝えていってね、と言っ  
てくれました。

帰ってきたから、ニュースで、被爆者の平  
的年れいが、初めて85才を越えたと、聞き  
ました。この78年間、日本が、平和でいら  
れたのは、戦争を体験した人達が、戦争の悲  
さんさ、平和の大切さを伝えてきてくれたか  
らだと思いました。私は、広島での平和学習  
を通して、核の悲さんさと、広島の人々の、  
前向きな思いを知ることができました。これ  
からも、戦争をしないうために、私達の世代が  
被爆者の思いを、受けつぎ、未来に伝えてい  
きたいと思いました。